



ボランティア・センター

～ 早稲田大学の取組 ～

□ 設立経緯

早稲田大学は、1882年の建学以来、教育、研究、社会貢献を使命としており、国際的な社会貢献活動を行う卒業生を多く輩出している。また、学生の意識も高いため、ボランティア活動に取り組むサークルも古くから多数あったとのこと。実際に1995年の阪神・淡路大震災発生時も、バスをチャーターして被災地に向かい、復興支援活動を行ったとのこと。社会的にもNPO法人や市民活動グループの活動が期待される状況となったこともあり、早稲田大学でもこれまでの活動実績や社会の要請に応える形で2002年に早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター（以下、WAVOC）が設立された。

□ 活動内容

WAVOCの活動の目的はボランティア活動などの情報提供・仲介をするだけでなく、実社会での体験を通して学ぶ機会を作ることにある。そのため、講義科目として単位を認定しているものもあれば、単位にならないプロジェクトも準備している。また、現地でのボランティア活動だけではなく、活動から戻った後、振り返りの実施に力を入れており、現場の解決していくべき課題を「自分事」としてとらえるように指導し、次の活動につながるようにしているとのこと。参加者の特徴として、WAVOC開設当初から早稲田大学の学生だけでなく、他大学の学生、一般市民、早稲田大学OBにもWAVOCの活用を呼び掛けており、実際に一緒に活動している。運営スタッフは、教員：准教授2名（有期3年）・助教4名（有期2年）、職員：専任職員3名・常勤嘱託1名・派遣職員2名・学生アルバイト2名。

東日本大震災の際には総長をトップとして「東日本大震災復興支援室」を立ち上げて支援に取り組んだが、WAVOCでは、この時のボランティアの仕組みを今後新たに他の災害が発生した際にも活用できるよう、災害対策ボランティアとしての仕組みを整備した。また、災害対策ボランティアはWAVOCの職員だけでなく、大学内の他の職員（約20名）の協力も得て実施できるようにしているとのこと。

また、WAVOCとして学生団体を30団体公認している。公認期間は3年で、毎年10団体ずつ入れ替わる。公認30団体は授業やプロジェクトに関連性があり、例えば農山村体験学習の授業を受けて農業関係の公認団体に入る学生もいれば、逆に農山村関係の公認団体に所属している学生がティーチングアシスタントとして農山村体験学習講座の学生の指導などに入るケースもあるとのこと。ボランティアも以前は支援する側と受ける側がはっきりしていたが、最近では人の交流の意義が大きくなっており、交流の中から学びを得ることが特徴と考えているとのこと。活動報告の機会として、年1回学内でボランティアフェアを実施しており、優れた活動を行った公認団体に活動資金の助成を行っている。

□ 連携先

連携する外部団体は、教職員のつてや学生の紹介、団体からの自己推薦等から選定しているが、一番多いケースは早稲田大学OBのつてによるもの。早稲田大学OBは全世界に60万人ほどおり、彼らやその周囲を巻き込んだバックアップ体制を構築した上で活動しているのも特徴とのこと。

連携先団体の選定で重視するのは、その団体の活動経験が学生の成長に役立つかどうかという点とのこと。学生の成長には、コミュニケーションスキルの向上やほかの価値観に直接触れることによる成長など多様なものがあると考えているとのこと。



□ 活動を行う中での課題

活動を行う中での最大の課題は、地域のニーズや変化に対応していくことだと考えているが、そのためには教職員の手厚いコーディネートが必要であることから、相応の人件費が掛かることも課題となっているとのこと。さらに、地域から WAVOC の学生ボランティアに対して要求されるレベルが非常に高い場合があり、そのレベルに達するまで学生を育成できていないことも課題となっている。また、国内外で活動する学生の安全確保には特に注意を払っており、事件・事故のバックアップ体制を取るとともに、安全セミナーを実施して学生が知識を身に付けた上で活動できるようにしているとのこと。一方、リスクを考え過ぎると何も活動できなくなってしまうので、両者のバランスについて常に悩んでいるとのこと。

□ 展望・期待

ボランティア活動では現地の生の声を聞くことができるので、上辺の知識だけの頭でっかちな学生にはならず、どこに行っても自ら考えて動けるグローバル人材の育成につながっていると考えているとのこと。

また、2032 年の大学創立 150 周年に向けた中長期計画として『Waseda Vision150』を策定しており、その柱としてグローバルな視点を持った人材の育成を掲げている。WAVOC では、ボランティア活動の振り返りメソッドを、留学やインターンシップ、アルバイト等ボランティア以外の振り返りにも使えるように研究開発を行っており、将来的には WAVOC 以外の学術院（研究科・学部）で用いられているほかの振り返りメソッドと合体させ、「Waseda method」として体験の言語化を広め、グローバルな視点を持った人材育成につなげていきたいとのこと。

（学生（男性）の声）

新潟のまつだい地区で月に 1～2 回、地元の方と交流する活動を行っています。5 年ほど前から耕作放棄地対策として棚田で米を作り、自分たちがいないときは現地の農家の方が手入れをしてくれました。米作りは楽しかったのですが、あるとき農家の方たちから手入れが大きな負担になっていると言われ、皆で議論して昨年からは米を作らないことにしました。地域の学生に対する要求と自分たちが地域で行いたいことのギャップを知り、それをどのように方向転換していくかを考えることができたという点で、自分の成長につながったと思います。それ以降は、清掃活動や秋祭り等集落の行事などに積極的に参加して、集落の方との信頼関係の構築に努めています。

早稲田大学 平山郁夫記念ボランティアセンター

設立年	2002 年
所長	早稲田大学理事 村上 公一
所在地	東京都新宿区戸塚町 1-103 STEP21
URL	http://www.waseda.jp/wavoc/

(2014 年 12 月作成)

内閣府 NPO ホームページ：活動事例集